

学生による授業評価アンケートの実施

東京未来大学では、「学生のための大学」という基本的理念に基づき、授業および授業環境をより良いものにしていくために、学生と教員とのコミュニケーションの機会として、大学開設年度である2007年度から、自己点検・評価委員会の指導のもとで「学生による授業評価」を春学期と秋学期に実施した。

本報告書では、始めに「学生による授業評価」の実施概要を述べた後、特徴的な結果について考察した。

1. 授業評価アンケートの実施期間

春学期は、平成19年7月19日（木）～8月3日（金）の第13回あるいは第14回の授業開講時に実施した。秋学期は、平成20年1月15日（火）～1月28日（月）の第13回あるいは第14回の授業開講時に実施した。

2. 授業評価アンケート実施方法

授業評価アンケートは、専任教員および非常勤講師を対象に、東京未来大学こども心理学部（通学）にて開講されている全科目において実施した。ただし、東京未来大学は今年度（2007年度）に開校されたばかりであり、今年度（2007年度）においては、開講科目が1学年を対象としたもののみであるという制限がある。

有効回収数は、春学期が1296名（履修登録者数1296名）で有効回収率80%、秋学期が1682名（履修登録者数1315名）で有効回収率78%であり、両者を合わせると2611名（履修登録者数3297名）、有効回収率79%であった。

春学期の授業評価アンケート実施要領を資料1に、秋学期の授業評価アンケート実施要領を資料2に付した。

3. 授業評価アンケートの構成

授業評価アンケートは、合計27項目からなるマークシート形式のアンケート用紙（資料3）と自由記述形式のアンケート用紙（資料4）の2つからなる。

マークシート形式のアンケート用紙は、下記4つの質問領域から構成された。1番目は「A. 新たな知識・技術を身につけることができたか」という質問領域、2番目は「B. 興味を持って授業をうけることができたか」という質問領域、3番目は「C. 授業に積極的・協力的に参加できたかどうか」という質問領域、4番目は「D. 望ましいマナーで気持ちよく授業を受けられたかどうか」という質問領域である。各質問において、5段階評価（5. 非常にそう思う、4. ややそう思う、3. どちらともいえない、2. あまりそう思わない、1. 全くそう思わない）で回答を求め、質問項目内容が当該授業にあてはまらない場合には「0. 該当しない」をマークするよう教示した。マークシート形式のアンケート用紙は自己点検・評価委員会が

回収した。

自由記述形式のアンケート用紙は授業の良かった点と改善点を問うものと、授業評価アンケート用紙および教室環境の改善点を問うものからなり、前者は担当教員が回収し、後者は自己点検・評価委員会が回収した。

授業評価アンケートの特徴としては、「授業とは、教員と学生双方が作り上げていくものである」という教育方針のもと、学生自身のマナーに加え、学生が他の受講生に対する気配りを問う内容も検討したことなどが挙げられる。

4. 授業評価アンケートの集計方法

(1) 全体集計の集計方法

授業評価アンケートは、ローデータを基に、1) 一般教育科目、専門教育科目における学生の専攻別集計、2) 一般教育科目、専門教育科目における履修人数別集計結果、3) 一般教育科目、専門教育科目における授業形態別集計結果、4) 科目区分別集計結果、5) 一般教育科目、専門教育科目における科目の履修/選択必修区分別集計結果、6) 学生の専攻別における専門科目群別集計結果、7) 一般教育科目、専門教育科目における教室別集計結果、8) 項目 16 (遅刻・欠席) に 5 段階評価回答者別集計結果、9) 項目 21 (受講マナーへの関心) の 5 段階評価回答者別集計の 9 つの集計方法でまとめた。本報告書には、春学期・秋学期の結果を合算して得られた 9 つの集計結果を巻末に付録として添付した。

(2) 授業評価アンケートから見る本学学生の動向の集計方法

全体集計結果のうち、特徴的であった結果を取り上げ、5. 「授業評価アンケート集計結果について」において、1) 科目区分別、2) 授業形態別、3) 受講生数および教室サイズ、4) 授業態度 (遅刻・欠席と受講マナー) の評価別にまとめた。これら 1) ~4) については、A~D の 4 つの質問領域における全体的な評価 (A. 質問項目 3: 全体として、この授業によって身についたものに満足できる。/B. 質問項目 14: 全体として、興味を持って授業を受けることができた。/C. 質問項目 20: 全体として、自分は積極的に授業に参加することができた。/D. 質問項目 27: 全体として、適度の緊張感と望ましいマナーで気持ちよく授業を受けることができた。) の結果を取り上げ、クロス集計したものについて考察する。

以下に考察部分で用いた分類区分について示す。

① 授業科目区分

授業科目区分は、CS、一般教育科目、専門教育科目の 3 つからなる。

【CS (College & Career Skills) プログラム】

CS とは、大学生活への積極的な取組姿勢の醸成や学ぶことに対するモチベーションアップ、および学ぶことにおいて基本的に必要となる文章力や読解力などを指導する『導入教育』と、大学 4 年間の具体的な学習計画を立て、将来に向けて自立したキャリアデザイン

ができるように支援する『キャリア教育』を目的として、CA (Campus Adviser) が実施し、担任教員がサポートするプログラムである。本学1、2年生全員を対象として週1回通年で行われるが、単位としては認定されない。

【一般教育科目】

一般教育科目は、豊かな人間性と幅広い教養を身につけ、専門教育での学習効果を高める基盤づくりをなすものとして位置づけられる。教養科目群（人間性の理解、先端科学と人間、国際社会と人間）、スポーツ科目群、情報処理科目群、コミュニケーション科目群（外国語、表現力）の4つの区分から編成される。

【専門教育科目】

専門教育科目は、各専攻分野についての専門性を追求し、社会でも即戦力となりうる実践力を体系的に習得することを目的として、まず理論的な科目で基礎知識や方法論を学び、実践的な科目で専門的技術力が身につけられるように配置している。基礎科目、基幹科目、展開科目、卒業研究科目の4つの区分から編成される。

② 授業形態区分

授業形態は、講義、演習、実習の3つの区分からなる。演習、実習には下記科目が含まれる。詳細は本学「学生便覧（通学） 履修の手引き」を参照されたい。

【演習】

一般教育科目の情報処理科目群、コミュニケーション科目群、および専門教育科目の「心理統計法Ⅰ」、展開科目の演習や理論的な科目、卒業研究科目が該当する。

【実習】

一般教育科目のスポーツ科目群、専門教育科目の「心理・教育アセスメントⅠ」（2008年度以降開講）、および専門教育科目の展開科目の実習、実技科目が該当する。詳細は本学「学生便覧（通学） 履修の手引き」を参照されたい。

③ 教室サイズ区分

授業で使用される教室を、大教室、中教室、小教室に分類した。具体的な教室番号は、Table 1 に示すとおりである。

Table 1 教室区分に対応する教室番号

教室区分	教室番号
小教室	102、103、104、105、106、107、205、302、303、304、305
中教室	201、204、208、301
大教室	308
実習教室	108、109、202、203、206、207、306、307、401、402、403、404、405、体育館

④ 履修登録者区分

履修登録者人数から、少人数（1～20人）、中人数（21～50人）、大人数（51人以上）の3つの区分を設けた。

5. 授業評価アンケート集計結果について

(1) 科目区分ごとの評価

Table 2 に授業科目区分 (CS、一般教育科目、専門教育科目) ごとに質問項目 3 (満足度)、14 (授業への興味度)、20 (授業への積極的参加)、27 (望ましいマナーでの参加) の基礎統計量 (有効回答者数、平均値、標準偏差) を示し、Figure 1 に各質問項目の平均値を示した。

Figure 1 からわかるように、すべての項質問目において、CS、一般教育科目、専門科目の順に評価が高くなっている。特に、この傾向は質問項目 27 (望ましいマナーでの参加) において顕著である。専門教育科目の得点が低くなっているが、これは本学が開学 1 年目であり、調査対象が 1 年生のみであったことと関連しているものと考えられる。ただし、いずれの科目区分においても中点 (3) 以上の評価を得ていることから、どの科目においても学生の満足度、授業に対する興味度、授業への積極的参加と望ましいマナーでの参加の度合いがポジティブに評価されていることが示されている。

本学の教育理念は「技能と心の調和」であり、単に知識や技術を習得するだけではなく、豊かな人間性も身につけた人材を育成することを教育目標としている。また、学生が入学してから就職するまで、教員が学生一人ひとりと向き合い、その個性と適性を把握し、充実した学生生活を送ることができるようサポートすることを特色として、CA と担任教員が連携しながら CS を行っている。したがって、CS の評価が最も高かったということは、本学の教育理念の成果が 1 年目から数値として表れた形であるといえよう。

Table 2 科目区分ごとの評価

	CS		一般教育科目		専門教育科目	
	M	(SD)	M	(SD)	M	(SD)
質問 3	4.10	(0.73)	3.94	(0.94)	3.75	(0.96)
	(N=168)		(N=1222)		(N=1067)	
質問 14	3.96	(0.95)	3.91	(1.03)	3.65	(1.06)
	(N=170)		(N=1222)		(N=1060)	
質問 20	3.89	(0.92)	3.82	(0.97)	3.59	(0.97)
	(N=169)		(N=1225)		(N=1058)	
質問 27	4.02	(0.87)	3.91	(0.97)	3.57	(1.00)
	(N=171)		(N=1225)		(N=1063)	

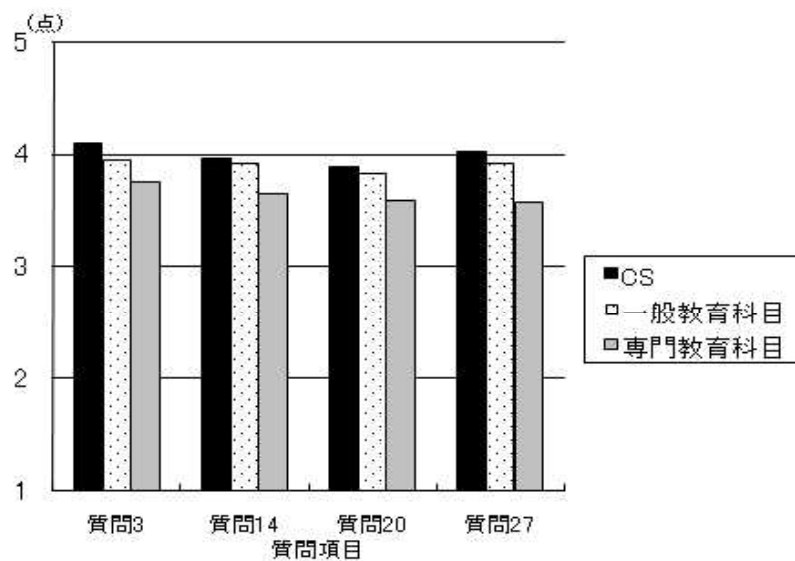


Figure1 科目区分ごとの評価

(2) 授業形態ごとの評価

Table 3 に一般教育科目、専門教育科目における授業形態（講義、演習、実習）ごとの質問項目 3、14、20、27 の基礎統計量（有効回答者数、平均値、標準偏差）を示した。また、Figure 2 は、一般教育科目、専門教育科目を合わせた各質問項目の平均値を示した。

Figure 2 より、すべての質問項目において、実習、演習、講義の順に評価が高くなっている。演習や実習のように体験型の授業形態では、学生の満足度や興味の度合いが高くなっているが、この傾向は本学に限らず、一般的な大学においてみられるものであると考えられる。ただし、各授業形態の 4 つの質問項目において、すべて中点 (3) 以上を得ていることから、全体的に学生の評価が高いことが示されている。

Table 3 授業形態ごとの評価

		講義授業科目		演習授業科目		実習授業科目	
		M	(SD)	M	(SD)	M	(SD)
質問 3	一般教育科目	3.98	(0.93)	3.85	(0.88)	4.00	(1.03)
	専門教育科目	3.67	(0.96)	4.14	(0.81)	4.13	(0.86)
質問 14	一般教育科目	3.96	(1.00)	3.77	(1.00)	4.06	(1.11)
	専門教育科目	3.55	(1.06)	4.11	(0.88)	4.21	(0.77)
質問 20	一般教育科目	3.81	(0.95)	3.72	(0.95)	4.02	(1.01)
	専門教育科目	3.50	(0.97)	3.96	(0.87)	4.10	(0.79)
質問 27	一般教育科目	3.93	(0.92)	3.81	(0.96)	4.05	(1.06)
	専門教育科目	3.48	(1.01)	3.98	(0.81)	4.02	(0.84)

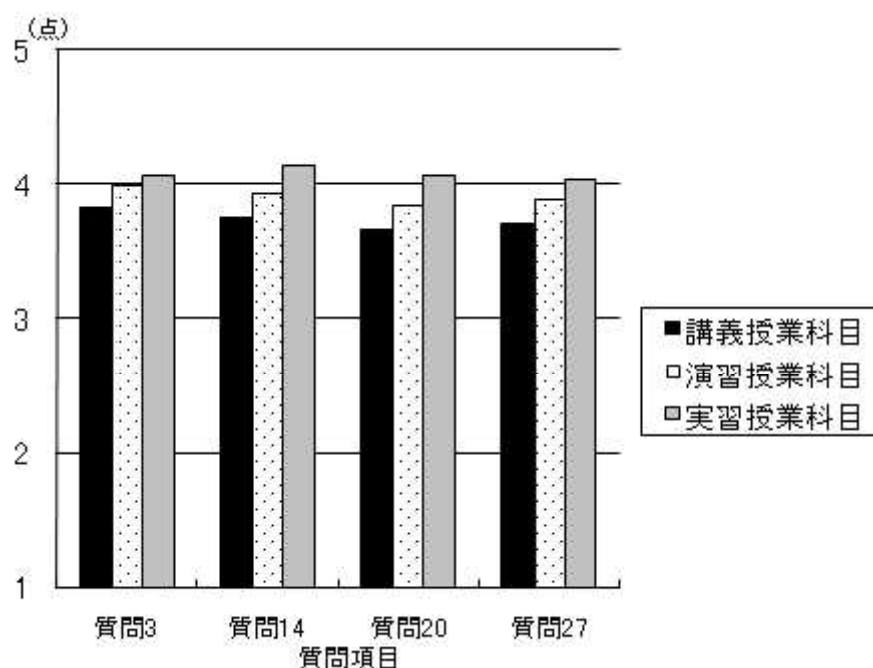


Figure2 一般教育科目と専門教育科目とを合わせた授業形態ごとの評価

(3) 教室サイズおよび履修登録者数と評価との関連

Table 4 に教室の種類（実習教室と3つの教室サイズ：大教室、中教室、小教室）ごとに履修登録者数（大人数、中人数、少人数）で見た質問項目 3、14、20、27 の基礎統計量（有効回答者数、平均値、標準偏差）を一般教育科目、専門教育科目別に示した。Figure 3 には、一般教育科目、専門教育科目を合わせた各質問項目の平均値を示した。

Figure 3 より、大人数の授業は、少人数や中人数の授業に比べて教室サイズの影響を受けやすく、一方で中教室は人数の影響を受けにくいことがわかる。特に、大教室において大人数で行われる授業の評価は低くなっており、授業態度と満足度の間に悪循環が生じていることが懸念される。ただし、大人数の授業でも中教室で行う場合には評価が最も高い。これは、中教室が教員の目が届きやすい構造であることや、学生同士が詰めて座ることで教員や他の学生から個人の動きが目立ちやすいために、自らの授業態度に注意が向けられやすくなることが理由として考えられる。

以上のことから、環境的要因が学生の満足度や授業態度と関連している可能性が示唆された。ただし、人数区分は履修登録者数によるものであり、最終的な受講人数とは異なる可能性もあることから、解釈には注意を要する。

Table 4 教室サイズおよび履修登録者数と評価との関連

	実習教室			小教室			中教室			大教室			
	少人数 M (SD) (N)	中人数 M (SD) (N)	大人数 M (SD) (N)	少人数 M (SD) (N)	中人数 M (SD) (N)	大人数 M (SD) (N)	少人数 M (SD) (N)	中人数 M (SD) (N)	大人数 M (SD) (N)	少人数 M (SD) (N)	中人数 M (SD) (N)	大人数 M (SD) (N)	
質問3	一般教育科目 (N=130)	3.95 (0.91)	3.78 (1.06)	—	3.95 (0.78)	4.15 (0.78)	4.00 (0.77)	4.16 (0.83)	4.08 (0.81)	4.06 (0.83)	—	—	2.90 (1.22)
	専門教育科目 (N=104)	4.22 (0.80)	—	—	—	4.25 (0.68)	—	3.33 (0.85)	3.90 (0.94)	3.85 (0.99)	—	—	3.57 (0.95)
質問14	一般教育科目 (N=129)	3.93 (1.06)	3.73 (1.16)	—	3.97 (0.89)	4.11 (0.83)	3.62 (0.84)	4.20 (0.97)	4.14 (0.84)	4.14 (0.75)	—	—	2.67 (1.15)
	専門教育科目 (N=104)	4.36 (0.75)	—	—	—	4.08 (0.80)	—	3.42 (0.76)	3.58 (1.04)	3.68 (1.10)	—	—	3.46 (1.04)
質問20	一般教育科目 (N=130)	3.83 (0.96)	3.81 (1.04)	—	3.83 (0.86)	3.90 (0.90)	3.53 (0.85)	4.05 (0.90)	3.95 (0.88)	3.78 (0.90)	—	—	2.97 (1.12)
	専門教育科目 (N=103)	4.17 (0.79)	—	—	—	4.02 (0.75)	—	3.42 (0.86)	3.40 (0.92)	3.57 (0.96)	—	—	3.46 (0.98)
質問27	一般教育科目 (N=130)	3.95 (0.98)	3.78 (1.80)	—	4.11 (0.83)	4.10 (0.82)	3.64 (0.84)	4.07 (0.89)	4.00 (0.85)	3.92 (0.82)	—	—	3.18 (1.18)
	専門教育科目 (N=104)	4.06 (0.79)	—	—	—	3.98 (0.79)	—	3.50 (1.04)	3.95 (0.74)	3.77 (0.97)	—	—	3.34 (1.00)

注 1: 人数区分 (大人数、中人数・少人数) は、履修登録者数に基づく区分であり、出席者数や回答者数ではない。

注 2: 斜線のセルは、該当科目がないことを示す。

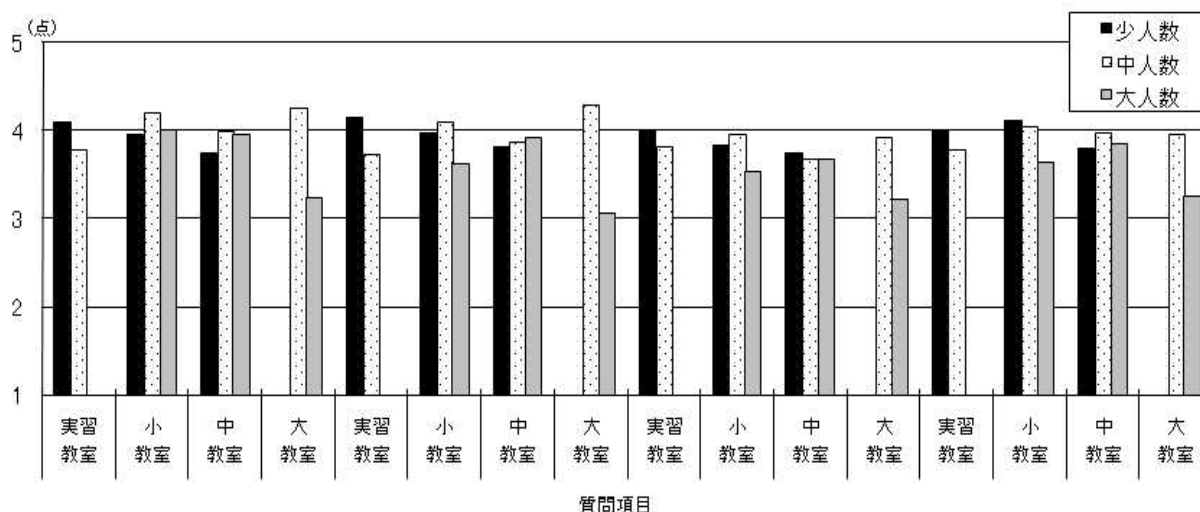


Figure3 一般教育科目と専門教育科目とをあわせた
教室サイズおよび履修登録者数と評価との関連

(4) 授業態度と評価との関連

質問項目 16「自分は、あまり遅刻や欠席をしなかった」について、「1.全くそうは思わない〜5.非常にそう思う」の各段階の回答者ごとに、質問項目 3、14、20、27 の基礎統計量 (有効回答者数、平均値、標準偏差) を示したのが Table 5 である。Table 6 は質問項目 21「自分は、私語・携帯電話・途中入退室のマナーなどに気を配った」に対する各段階の回答者ごとに基礎統計量をまとめたものである。また、それぞれの平均値を Figure 4、Figure 5 に示した。

Figure 4 および Figure 5 から、授業態度がよい学生ほど、すべての質問項目での評価が

高く、学生の満足度、授業に対する興味度、授業への積極的参加と望ましいマナーでの参加の度合いがポジティブに認知されている傾向がみられる。特に、この傾向は、自らのマナーへの関心（質問項目 21）と 4 つの質問項目、遅刻・欠席の少なさ（質問項目 16）と積極的態度（質問項目 20）との関係に顕著に表れている。

ただし、質問項目 21 において、自らの授業でのマナーを「まったく気を配っていない」と回答した学生数は非常に少なく（ $n=15\sim 17$ ）、分布に偏りがある点に注意を要する。

Table 5 受講態度と評価との関連(1)

～質問項目 16「遅刻・欠席をしなかった」とのクロス集計～

	全く そう 思わない <i>M (SD)</i> <i>(N)</i>	あまり そう 思わない <i>M (SD)</i> <i>(N)</i>	どちらとも いえない <i>M (SD)</i> <i>(N)</i>	やや そう 思う <i>M (SD)</i> <i>(N)</i>	非常に そう 思う <i>M (SD)</i> <i>(N)</i>
質問 3	3.41 (1.21) (N=114)	3.77 (0.95) (N=208)	3.61 (0.87) (N=545)	3.83 (0.81) (N=581)	4.14 (0.92) (N=977)
質問14	3.26 (1.32) (N=114)	3.53 (1.17) (N=209)	3.52 (0.92) (N=546)	3.78 (0.90) (N=579)	4.11 (1.04) (N=973)
質問20	2.61 (1.22) (N=115)	3.27 (1.03) (N=203)	3.40 (0.72) (N=547)	3.74 (0.79) (N=581)	4.14 (0.93) (N=977)
質問27	3.10 (1.18) (N=115)	3.52 (1.01) (N=210)	3.48 (0.82) (N=545)	3.75 (0.86) (N=583)	4.09 (1.00) (N=978)

Table 6 受講態度と評価との関連(2)

～質問項目 21「自分は、私語・携帯電話・途中入退室の
マナーなどに気を配った」とのクロス集計～

	全く そう 思わない <i>M (SD)</i> <i>(N)</i>	あまり そう 思わない <i>M (SD)</i> <i>(N)</i>	どちらとも いえない <i>M (SD)</i> <i>(N)</i>	やや そう 思う <i>M (SD)</i> <i>(N)</i>	非常に そう 思う <i>M (SD)</i> <i>(N)</i>
質問 3	1.27 (0.68) (N=15)	3.15 (1.05) (N=66)	3.44 (0.82) (N=654)	3.84 (0.82) (N=857)	4.37 (0.81) (N=837)
質問14	1.19 (0.53) (N=16)	2.89 (1.12) (N=67)	3.29 (0.92) (N=651)	3.78 (0.91) (N=853)	4.37 (0.91) (N=839)
質問20	1.31 (0.85) (N=16)	2.57 (0.93) (N=67)	3.17 (0.72) (N=654)	3.70 (0.83) (N=855)	4.35 (0.84) (N=839)
質問27	1.29 (0.96) (N=17)	2.93 (0.99) (N=68)	3.18 (0.69) (N=651)	3.75 (0.81) (N=861)	4.38 (0.93) (N=840)

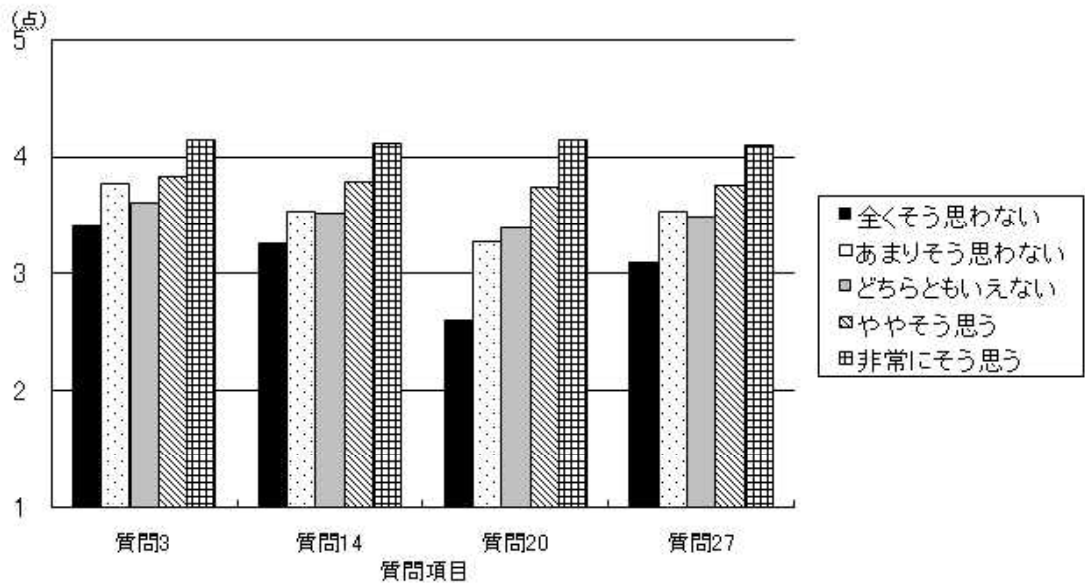


Figure 4 受講態度と評価との関連(1)
 ～質問項目 16「遅刻・欠席をしなかった」とのクロス集計～

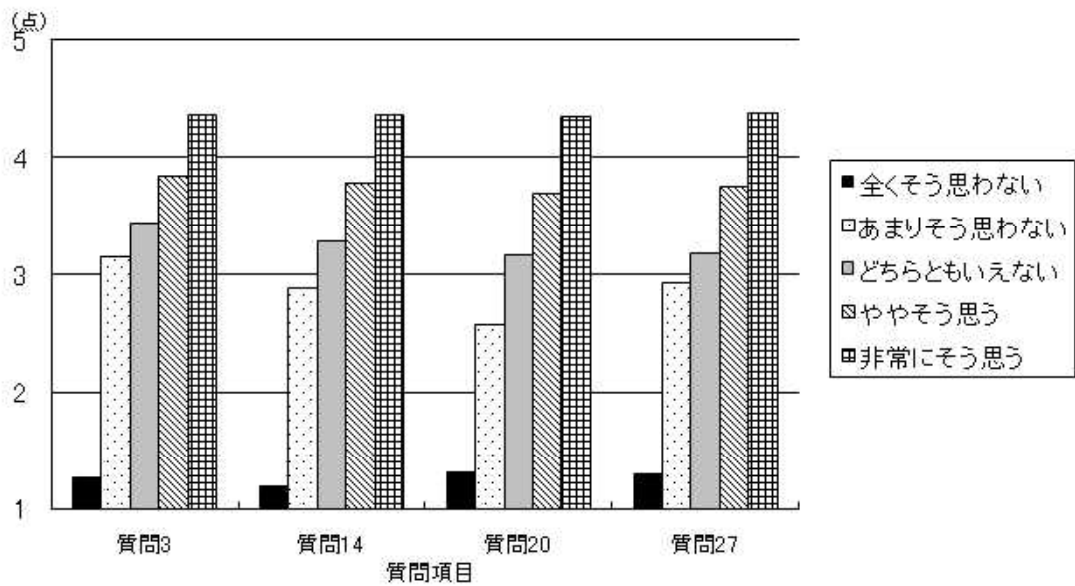


Figure 5 受講態度と評価との関連(2)
 ～質問項目 21「自分は、私語・携帯電話・途中入退室の
 マナーなどに気を配った」とのクロス集計～

東京未来大学
教職員 各位

東京未来大学 自己点検・評価委員会

学生による授業評価アンケートの実施のお願い・実施要領

このアンケート調査は、本学の基本方針に基づくものでもあり、授業および授業環境をより良いものにしていくために、学生と教員とのコミュニケーションの機会として、本年度以降、毎年春学期・秋学期全開講科目を対象に実施するものです。ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、ご協力をお願い申し上げます。

該当する担当教員にアンケート調査を実施していただき、回答結果を統計処理することになっております。別紙の自由記述につきましては、教員が保管し、今後の教育活動にお役立てください。

なお、授業評価アンケートの実施につきましては、下記の点にご留意願います。

1 実施期間

前期 平成19年7月19日(木)～8月3日(金)の第13回あるいは第14回の授業
ご担当の科目の実情に合わせて、この期間内をお願いいたします。

2 対象科目

こども心理学部(通学)にて開講されている全科目(専任教職員及び非常勤講師による)。

3 趣旨

実施前に必ず、受講生に以下の趣旨をお伝えください。特に、学生も教職員も本校でのアンケート実施初年度となりますので、何のための調査であるのかを学生に十分に理解してもらう必要があります。

良い授業とは教員と学生が一緒になって作るものです。そこで、授業および授業環境の改善を図るための基礎資料を得ることを目的としてアンケートを実施します。

アンケートの結果は、受講生の立場からの「評価」に止まるものではなく、これを貴重な契機として、今後の授業を学生・教員相互に満足のいくものにしていくための「機会」と捉えています。これによって、当該科目の成績評価が左右されるということは決してありませんので、みなさんの正直な声を聞かせてください。

4 実施要領

- (1) 実施時間は15分程度を想定していますが、授業内に回収できるよう、できるだけ授業の始めに実施してください。
- (2) マークシート1枚、自由記述用紙1枚を配布してください。
- (3) 筆記用具は、鉛筆・シャープペンシル・ボールペンなど、いずれも可です。
- (4) 設問の内容が当該の授業の実態に合わない場合には、回答欄右端の「該当しない」にマークするよう指示してください。
- (5) アンケート用紙上部にある「**授業科目**」、「**担当者名**」の記載を忘れないように確認の指示をお願いいたします。また、すべてが終わった後に記入漏れがないように確認を促してください。
- (6) 回収方法は、以下の通りです。

マークシートのアンケート用紙 受講生の代表者(担当教員が決めてください)に回収をさせ、回収用封筒に入れ、封をしたうえで、授業終了後に速やかに事務局に届けさせていただきます。

別紙の自由記述用紙 受講生に上下半分に切り取らせた上、上部を担当教員が回収してください。下部は受講者の代表者が速やかに事務局に届けるよう指示してください。

5 集計結果

- (1) アンケートの集計結果は、秋学期が始まりましたら担当者ごとにお知らせいたします。
- (2) このアンケート調査に関するご質問等は、自己点検・評価委員会までお願いいたします。

東京未来大学
教職員 各位

東京未来大学 自己点検・評価委員会

学生による授業評価アンケートの実施のお願い・実施要領

このアンケート調査は、本学の基本方針に基づくものでもあり、授業および授業環境をより良いものにしていくために、学生と教員とのコミュニケーションの機会として実施するものです。ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、ご協力をお願い申し上げます。

該当する担当教員にアンケート調査を実施していただき、回答結果を統計処理することになっております。別紙の自由記述につきましては、教員が保管し、今後の教育活動にお役立てください。

なお、授業評価アンケートの実施につきましては、下記の点にご留意願います。

1 実施期間

秋学期 平成20年1月15日(火)～1月28日(月)の第13回あるいは第14回の授業
ご担当の科目の実情に合わせて、この期間内をお願いいたします。

2 対象科目

こども心理学部(通学)にて開講されている全科目(専任教職員及び非常勤講師による)。

3 趣旨

実施前に必ず、受講生に以下の趣旨をお伝えください。特に、学生も教職員も本校でのアンケート実施初年度となりますので、何のための調査であるのかを学生に十分に理解してもらう必要があります。

良い授業とは教員と学生が一緒になって作るものです。そこで、授業および授業環境の改善を図るための基礎資料を得ることを目的としてアンケートを実施します。

アンケートの結果は、受講生の立場からの「評価」に止まるものではなく、これを貴重な契機として、今後の授業を学生・教員相互に満足のいくものにしていくための「機会」と捉えています。これによって、当該科目の成績評価が左右されるということは決してありませんので、みなさんの正直な声を聞かせてください。

4 実施要領

- (1) 実施時間は15分程度を想定していますが、授業内に回収できるよう、できるだけ授業の始めに実施してください。
- (2) マークシート1枚、自由記述用紙1枚を配布してください。
- (3) 筆記用具は、鉛筆・シャープペンシルで記入してください。(ボールペンでの記入はしないでください)
- (4) 設問の内容が当該の授業の実態に合わない場合には、回答欄右端の「**該当しない**」にマークするよう指示してください。
- (5) アンケート用紙上部にある「**授業科目**」、「**担当者名**」の記載を忘れないように確認の指示をお願いいたします。また、すべてが終わった後に記入漏れがないように確認を促してください。
- (6) 回収方法は、以下の通りです。

マークシートのアンケート用紙 受講生の代表者(担当教員が決めてください)に回収をさせ、回収用封筒に入れ、封をしたうえで、授業終了後に速やかに事務局に届けさせてください。

別紙の自由記述用紙 受講生に上下半分に取り取らせた上、上部を担当教員が回収してください。下部は受講者の代表者が速やかに事務局に届けるよう指示してください。

5 集計結果

- (1) アンケートの集計結果は、自己点検・評価委員会より担当者ごとにお知らせいたします。
- (2) このアンケート調査に関するご質問等は、自己点検・評価委員会までお願いいたします。

授業に関するアンケート

この調査は、授業改善を目的として行うものです。回答はすべて統計的に処理され、回答することによってあなたが不利益を受けることはありませんので、率直にお答えください。

調査実施日【20__年__月__日】

 良い例 悪い例

1. あなたについて、以下の項目であてはまる箇所にマークしてください。

 専攻 こども心理 こども保育 学年 1年生 2年生 3年生 4年生 性別 男 女

 受講理由 (複数選択可) 必修科目 シラバスや初回授業で興味を持った 資格取得のため 先輩や友人の勧め 将来(就職や進学など)に役立つから 単位が取りやすい 時間割の都合 なんとなく その他

2. この授業についてお伺いします。各質問に対して、もっともよくあてはまると思う箇所の番号にマークしてください。ただし、この授業に該当しない、あるいは答えたくない質問には「該当しない」欄にマークしてください。

【質問項目】

	非常に そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	該当 しない
A 新たな知識・技術を身につけることができたかどうか						
1. この授業によって、新たな知識や技術・技能、考え方を得ることができた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 将来役に立つと思われる知識・技術が身についた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 全体として、この授業によって身についたものに満足できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
B 興味を持って授業を受けられたかどうか						
4. 担当教員は、各授業および授業全体の目的を明確に示していた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 授業はシラバスに沿って進められた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 担当教員は、はっきりとした声で、わかりやすい言葉を用いていた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7. 担当教員は、具体例をあげたり、まとめを行うなどわかりやすく説明していた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8. 授業で用いられた教材・器具(テキスト、配布資料、ビデオ、スライド、板書など)が十分に準備され、かつ適切に用いられていた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9. 興味の持てる授業になるよう授業構成(組み立て、時間配分等)が工夫されていた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10. 授業の進め方の速さは	速すぎる <input type="radio"/>	やや速い <input type="radio"/>	ちょうどよい <input type="radio"/>	やや遅い <input type="radio"/>	遅すぎる <input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11. 授業内容のレベルは	難しすぎる <input type="radio"/>	やや難しい <input type="radio"/>	ちょうどよい <input type="radio"/>	やややさしい <input type="radio"/>	やさしすぎる <input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12. 担当教員は熱意をもって授業を行っていた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13. この授業を先輩に薦めたい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14. 全体として、興味を持って授業を受けることができた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
C 授業に積極的・協力的に参加できたかどうか						
15. 自分は、事前に教科書や資料を読むなど、十分に準備をして授業を受けた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
16. 自分は、あまり遅刻や欠席をしなかった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
17. 担当教員は、学生からの質問を受けたり、発表・ディスカッションをする機会を設けた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
18. 担当教員は、グループワークや事前のグループ学習などによる学生同士の協力・助け合いを促した。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
19. 担当教員は、学生の理解度に応じた課題を出すなど、学生が自ら学ぶことを促した。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
20. 全体として、自分は積極的に授業に参加することができた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
D 望ましいマナーで気持ちよく授業を受けられたかどうか						
21. 自分は、私語・携帯電話・途中入退室のマナーなどに気を配った。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
22. 自分は、他の受講生の私語や授業態度を注意し、学びやすい環境作りに協力した。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
23. 担当教員は、学生一人一人を尊重し、学生同士も尊重し合える雰囲気作りを心がけた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
24. 担当教員は、授業開始・終了時の挨拶行動の促進、私語への注意や授業態度に対する指導など、学びやすい雰囲気を保つように努めていた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
25. 授業の開始、終了時刻は守られていた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
26. 担当教員は、成績の評価方法を説明した。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
27. 全体として、適度の緊張感と望ましいマナーで気持ちよく授業を受けることができた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

授業科目名	
-------	--

以下の1～3の質問について、あなたが思うことを自由に記述してください。なお、2、3の質問は、1度回答した教室については、2回目以降は記入・提出をする必要はありません。また、この回答によって、あなたが不利益を受けることは決してありませんので、率直にお答えください。

1. この授業についてよかった点、改善してほしい点があれば具体的に記述してください。

① よかった点

②改善してほしい点

===== <学生キリトリ> =====

※以下の質問は、当該教室について1度回答した場合、2回目以降は回答・提出をする必要はありません。

2. この評価表(マークシート、自由記述)は適切でしょうか？改善点(文字が小さい、回答しにくい項目があるなど)があれば、自由に記述してください。

3. 左上の枠内に教室番号を記入の上、**教室環境**(音響、スクリーンの見やすさ、教室の配置・大きさ、私語・携帯電話のマナーなど)について、改善してほしいところがあれば、自由に記述してください。

教室番号	

提出の際には、<学生キリトリ>の印のところを切り取って、上半分を担当教員に渡し、下半分を事務局の回収ボックスに入れてください。ご協力、ありがとうございました。

通信教育課程における 学生による授業評価アンケートの実施

東京未来大学では、通信教育課程においても授業および授業環境をより良いものにしていくために、学生と教員とのコミュニケーションの機会として、2007年度秋学期から自己点検・評価委員会の指導のもとで「学生による授業評価」を実施した。

1. 授業評価アンケート実施方法

授業評価アンケートは専任教員および非常勤講師を対象に東京未来大学こども心理学部こども心理学科通信教育課程にて開講されている全科目において、履修した正科生に実施した。ただし、東京未来大学は今年度(2007年度)に開校されたばかりであり、今年度(2007年度)においては、開講科目が1学年を対象としたもののみであるという制限がある。

通信教育課程においては、科目の履修方法がテキスト履修科目とスクーリング履修科目に大別され、実施期間や授業評価アンケートの構成を区別して実施した。詳細は2. 授業評価アンケートの実施期間および3. 授業評価アンケートの構成に明記する。

2. 授業評価アンケートの実施期間

(1) テキスト履修科目

通信教育課程におけるテキスト履修科目は、「2セメスター8ターム制度」を採用しており、1ターム(4~5週間)に最大2科目を履修する。秋学期においては、第5ターム・第6ターム・第7ターム・第8タームが該当し、各タームの単位修得試験終了後、eラーニングシステムを利用のもと、次の日程で授業評価アンケート(オンライン提出)を実施した。

第5ターム:平成19年12月7日(日)~12月16日(火)
第6ターム:平成20年1月30日(金)~2月8日(日)
第7ターム:平成20年3月5日(木)~3月16日(月)
第8ターム:平成20年3月10日(火)~3月23日(月)

(2) スクーリング履修科目

通信教育課程におけるスクーリング履修科目は、今年度(2007年度)は年間7日程を開講し、秋学期に該当する週末B日程・短期C日程の2日程において、各日程受講後、eラーニングシステムを利用のもと、次の日程で授業評価アンケート(オンライン提出)を実施した。

週末B日程:平成19年12月21日(金)~1月14日(月)
短期C日程:平成20年3月5日(水)~3月16日(日)

3. 授業評価アンケートの構成

通信教育課程における授業評価アンケートは、通学課程における質問項目（資料 3）を適用した。ただし、テキスト履修科目（資料 4）とスクーリング履修科目（資料 5-1・5-2）で、質問項目を区別し、通信教育課程における講義形式に沿う内容に、適宜削除や修正を行った。

択一形式の質問事項において、5 段階評価（非常にそう思う、ややそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、全くそう思わない等）で回答を求め、質問項目内容があてはまらない場合は「該当しない」を選択させた。

また、授業評価アンケートは、すべて e ラーニングシステムのオンライン提出を利用し、択一形式と自由記述形式併用の質問項目とした。なお、学生の提出に関しては、完全な匿名性を確保した上で実施し、アンケートへの回答後、自己点検・評価委員会による確認・回収・集計が行われた。

4. 授業評価アンケートの集計方法

テキスト履修科目、スクーリング履修科目ともに、5 段階評価で次のように数値化した。なお、「該当しない」に選択した場合は、平均点算出には含めていない。

非常にそう思う/ちょうどよい...5 点
ややそう思う...4 点
どちらともいえない/やや難しい/やややさしい/やや速い/やや遅い...3 点
あまりそう思わない...2 点
全くそう思わない/難しすぎる/やさしすぎる/速すぎる/遅すぎる...1 点

テキスト履修科目においてはターム・質問項目ごとに、スクーリング履修科目においては日程・質問項目ごとに、「平均値」、「標準偏差」、「有効回答者数」を示し、巻末に付録として添付した。

5. 授業評価アンケート集計結果について

通信教育課程の授業評価アンケート集計結果について、巻末の「スクーリング履修科目 2 日程合計」、「テキスト履修科目第 5 ターム～第 8 ターム合計」に基づき、スクーリング履修科目、テキスト履修科目の順に概観する。さらに、スクーリング履修科目の評価結果を踏まえた通学課程の問題点、テキスト履修科目の評価結果を踏まえて講じられた 2008 年度の改善策について触れる。

(1) スクーリング履修科目に関する授業評価アンケートの結果

スクーリング履修科目の評価項目は、通学課程と同様に「A.新たな知識・技術を身につけることができたか」（以降「A.知識・技術」とする）3 項目、「B.興味を持って授業をうけることができたか」（「B.興味」）11 項目、「C.授業に積極的・協力的に参加できたかどうか」（「C.参加態度」）6 項目、「D.望ましいマナーで気持ちよく授業を受けられたかどうか」（「D.マナー」）7 項目であった。各質問領域において、「5. 非常にそう思う」の回答（質

問項目 10「授業の進め方の速さ」、11「授業内容のレベル」については「3.ちょうどよい」が 50%以上になる質問項目と、20%以下になる質問項目を抽出して比較した。

その結果、「5.非常にそう思う」が 50%以上の項目は、「A.知識・技術」3項目、「B.興味」9項目、「C.参加態度」2項目、「D.マナー」2項目で示され、すべての質問領域において高い評価が得られた。一方、「5.非常にそう思う」が 20%以下の質問項目は、「C.参加態度」の 1項目のみであり、その内容は、事前準備の十分さであった。

スクーリングの受講生の満足度や習得度の高さは、受講生自身の授業へのモチベーションの高さにも関連すると思われるが、質問項目 12のように「担当教員は熱意をもって授業を行っていた」(67.7%)ことや、質問項目 7「担当教員は、具体例をあげたり、まとめを行うなどわかりやすく説明していた」(63.1%)こと、質問項目 17「担当教員は、学生からの質問を受けたり、発表・ディスカッションをする機会を設けた」(70.8%)ことなど、教員の授業工夫の成果であると読み取れる。

また、スクーリング履修科目の学生のモラルの高さは、質問項目 21「自分は、私語・携帯電話・途中入退室のマナーなどに気を配った」(72.3%)からも示され、個人のマナーへの配慮が質問項目 27「全体として、適度の緊張感と望ましいマナーで気持ちよく授業を受けることができた。」(69.2%)という高い満足度を示す結果となった。これは、まさに本学が目指す「学生と教員の協働による授業」が実践できたことを示唆するものといえる。

一方、評価の低かった、学生の事前準備の十分さについては、スクーリング日程の影響が考えられる。スクーリング履修科目には週末コース、短期コース、夏季スクーリングの 3種類があるが、いずれも数日間で集中して授業を受講する必要があるため、学生にとっては事前準備の時間を十分に確保するのが難しい。加えて、通信教育課程の学生の多くは社会人として仕事を有しており、授業準備に費やす時間の確保が難しいという現状が指摘できる。事前準備がしやすいようスクーリング日程を長期に変更することも考えられるが、社会人である学生にとって、それはむしろ物理的・心理的負担になる可能性が高いことから、より一層の担当教員および CA によるフォローが求められるだろう。たとえば、工夫できる点として、授業のスピードや課題の量の調整が考えられる。アンケート結果では、学生の 32.3%が「スピードがやや早い」と感じており、38.5%が「授業内容のレベルがやや難しい」と感じている。今後は、一定の授業時間ごとに復習の時間を確保したり、授業の内容の選定や量を調整したりするなどの改善が求められる。

(2) スクーリング履修科目と通学課程の授業評価の比較

スクーリング履修科目は履修期間に違いがあるものの、通学課程の授業と同様の形態で行われる。そこで、通学課程の授業評価結果との比較を行うため、上記(1)と同様に「A.知識・技術」、「B.興味」、「C.参加態度」、「D.マナー」の各分類において、「5.非常にそう思う」の回答が 50%以上になる質問項目と、20%以下になる質問項目に分けて、通学課程の一般教育科目、専門教育科目における学生の専攻別(こども心理専攻/こども保育専攻)の集計(巻末付録の 1))の集計との相違を検討した。

その結果、「5.非常にそう思う」が 50%以上の質問項目は、「A.知識・技術」ではスクーリング履修科目 3項目に対して、通学課程の一般教育科目、専門教育科目に対する両専攻の結果すべてを通して 1項目も見られなかった。「B.興味」では、スクーリング履修科目 9

項目に対して、通学課程の一般教育科目、専門教育科目に対する両専攻の結果すべてを通して 2 項目であった。「C.参加態度」および「D.マナー」では、スクーリング履修科目がそれぞれ 2 項目であったのに対して、通学課程では教科内容や専攻にかかわらず 1 項目も見られなかった。

一方、「5.非常にそう思う」が 20%以下の質問項目は、スクーリング履修科目が「C.参加態度」の 1 項目のみであったのに対して、通学課程の一般教育科目のこども心理専攻の結果では「C.参加態度」1 項目、「D.マナー」1 項目、こども保育専攻の結果では「C.参加態度」1 項目、専門教育科目のこども心理専攻の結果では「A.知識・技術」2 項目、「B.興味」4 項目、「C.参加態度」5 項目、「D.マナー」5 項目、こども保育専攻の結果では、「C.参加態度」3 項目、「D.マナー」1 項目であった。

スクーリング履修科目と通学課程では、同じ科目内容が実施されているにもかかわらず、両者では満足度や習得度、学生のモラルの高さに大きな差が示された。通学課程の学生は、授業の進め方と授業内容に関してのみ高い評価を示しているものの、その他は非常に低い結果となった。特に、学生が低く評価した項目は、こども保育専攻では、学生自身の授業準備やモラルに対する 2 項目のみであったが、こども心理専攻では、教員の授業運営や学生のモラルの低さなど多岐にわたって確認された。つまり、通学課程のこども心理専攻においては、学生のモラルの低さと教員の授業運営が交絡し、悪循環をなしていた可能性が示唆される。

以上より、スクーリング履修科目の授業評価の高さは、学生の学ぶ意欲に支えられた学生と教員との協働の学びであったのに対して、通学課程の結果からは学生の学習意欲の低さとそれへの対応策が講じられなかった教員の姿が浮き彫りとなったものと考えられる。スクーリング履修科目の授業評価結果と比較することで、今後、どのように学生を育てていくか、また学生とともに魅力ある授業をどのように作っていくかなど通学課程の授業について多くの課題が残された。

(3) テキスト履修科目に関する授業評価アンケートの結果

テキスト履修科目についても、スクーリング履修科目と同様に「5.非常にそう思う」(項目 8「授業内容のレベル」については「3.ちょうどよい」)に評定された回答者の割合に注目した。ただし、履修形態の特性から評価項目数は 12 項目になっている。

当該評定への回答が 50%を超えた項目は、項目 1「この授業によって、新たな知識や技術・技能・考え方を得ることができた」のみであり、一方、20%に満たない項目は見られなかった。スクーリング履修科目に比べると、全項目を通して「5.非常にそう思う」という強い肯定的回答を示した割合はそれほど大きくないことが示された。しかし、「2.あまりそう思わない」、「1.全くそう思わない」への回答率は低く、「4.ややそう思う」も併せた肯定的な回答は過半数を超えていた。

項目 1 と、項目 2「将来役に立つと思われる知識・技能が身についた」、項目 3「全体として、この授業によって身についたものに満足できる」、項目 9「全体として、興味を持って授業を受けることができた」に関しては、「4.ややそう思う」を併せると 80~90%の回答が得られおり、テキスト履修科目においてもスクーリング履修科目と同様に、有益な知識や技能を習得し、比較的高い満足感が得られていることが示された。

本学のテキスト履修科目では、担当教員が作成したオリジナルテキスト(2007年度開講科目16科目中3科目)と市販のテキストのいずれかを用い、後者で学習を進める場合には、学習目標や理解度テストを掲載した「学習の手引き」を担当教員が作成することで学習をサポートしている。しかしながら、テキスト内容については5割弱の学生が「難しすぎる」、「やや難しい」と感じ(項目8)、2割弱の学生は内容が「わかりにくい」、「ややわかりにくい」と感じていた(項目6)ことから、自習で進める履修形態の難しさを反映した結果であると考えられる。ただし、前述したように授業への満足感が比較的高いことから、その難しさをネガティブに捉えるのではなく、意欲的な学習姿勢に転換したものと考えられる。

なお、本学ではe-mail、eラーニングシステム上の掲示板、夕刻のオフィスアワーという3つ連絡手段による、担当教員と受講生とのコミュニケーションの機会を設けている。しかし、担当教員の対応に関連した質問項目11、12では、他の項目に比べて「0.該当しない」への回答が多くみられることから、これらのコミュニケーション機会が十分に周知されていなかった可能性が示唆される。

(4) テキスト履修科目の2008年度への改善点

スクーリング履修科目、テキスト履修科目ともに全体的に高い満足度が得られていたものの、テキスト履修科目についてはコミュニケーション機会の提供に関して、いくつかの問題点が指摘される結果が示された。そこで2008年度は、その改善策として、1)シラバス上に授業の目的、コミュニケーション方法、成績採点方法をより明確に示すこと、2)仕事を持つ学生を考慮してオフィスアワーを17:00~20:00に設定すること、3)ターム開始直前に、担当教員から授業内容、コミュニケーション方法についてeラーニングシステム上で学生に連絡すること、といった3点を徹底している。また、2学年を通してオリジナルテキストがテキスト履修科目36科目中10科目に増え、市販テキストを使用する際にも「学習の手引き」の解説を詳細に示すなどの対応を取ることで、学生の学習をサポートしようと努めている。

授業評価アンケート Course Evaluation

以下は、あなたが履修している科目のうち、現在実施中で回答できるアンケートの一覧です。「回答する」のボタンを押し、アンケートに回答してください。

通信教育課程 授業評価アンケート(テキスト履修科目)

この調査は、授業改善を目的として行うものです。回答することによってあなたが不利益を受けることはありませんので、平直にお答え下さい。

注)以下の質問項目に記載のある「授業」とは、テキスト履修・スクーリング履修・オフィスアワー・インターネットを利用した学習サポートなど通信教育の学習内容すべてを含みます。

問1

この授業によって、新たな知識や技術・技能・考え方を得ることができた。

- 非常にそう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 全くそう思わない
 該当しない

問2

将来役に立つと思われる知識・技術が身についた。

- 非常にそう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 全くそう思わない
 該当しない

問3

全体として、この授業によって身についたものに満足できる。

- 非常にそう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 全くそう思わない
 該当しない

問4

担当教員は、各授業および授業全体の目的を明確に示していた。

- 非常にそう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 全くそう思わない
 該当しない

問5

テキストや学習の手引きには、目標が明確に示されていた。

- 非常にそう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 全くそう思わない
 該当しない

問6

授業に用いられたテキストは、適切な内容で分かり易かった。

- 非常にそう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 全くそう思わない
 該当しない

問7

担当教員による科目に関する指示や指導は分かりやすく、適切だった。

- 非常にそう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 全くそう思わない
 該当しない

問8

授業内容のレベルは

- 難しすぎる
 やや難しい
 ちょうどよい
 やややさしい
 やさしすぎる
 該当しない

問9

全体として、興味を持って授業を受けることができた。

- 非常にそう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 全くそう思わない
 該当しない

問10

全体として、自分は積極的に授業に参加することができた。

- 非常にそう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 全くそう思わない
 該当しない

問11

担当教員は、学生の質問に答える時間を指定してくれた。

- 非常にそう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 全くそう思わない
 該当しない

問12

担当教員は、学生の質問に適切に答えてくれた。

- 非常にそう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 全くそう思わない
 該当しない

問13

この授業をさらに良いものにするために気付いたことをお書きください。(自由記述)

問14

その他何かありましたら自由にお書きください。(自由記述)

送信



授業評価アンケート Course Evaluation

以下は、あなたが履修している科目のうち、現在実施中で回答できるアンケートの一覧です。
「回答する」のボタンを押し、アンケートに回答してください。

通信教育課程 授業評価アンケート(スクーリング履修科目)

この調査は、授業改善を目的として行うものです。回答することによってあなたが不利益を受けることはありませんので、率直にお答え下さい。

注)以下の質問項目に記載のある「授業」とは、テキスト履修・スクーリング履修・オフィスアワー・インターネットを利用した学習サポートなど通信教育の学習内容すべてを含みます。

問1

この授業によって、新たな知識や技術・技能、考え方を得ることができた。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問2

将来役に立つと思われる知識・技術が身についた。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問3

全体として、この授業によって身についたものに満足できる。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問4

担当教員は、各授業および授業全体の目的を明確に示していた。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問5

授業はシラバスに沿って進められた。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問6

担当教員は、はっきりとした声で、わかりやすい言葉を用いていた。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問7

担当教員は、具体例をあげたり、まとめを行うなどわかりやすく説明していた。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問8

授業で用いられた教材・器具(テキスト、配布資料、ビデオ、スライド、板書など)が十分に準備され、かつ適切に用いられていた。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問9

興味の持てる授業になるよう授業構成(組み立て、時間配分等)が工夫されていた。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問10

授業の進め方の速さは

- 速すぎる
- やや速い
- ちょうどよい
- やや遅い
- 遅すぎる
- 該当しない

問11

授業内容のレベルは

- 難しすぎる
- やや難しい
- ちょうどよい
- やややさしい
- やさしすぎる
- 該当しない

問12

担当教員は熱意をもって授業を行っていた。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問13

この授業を他の学生に薦めたい。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問14

全体として、興味を持って授業を受けることができた。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

資料5-2

問15

自分は、事前に教科書や資料を読むなど、十分に準備をして授業を受けた。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問16

自分は、あまり遅刻や欠席をしなかった。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問17

担当教員は、学生からの質問を受けたり、発表・ディスカッションをずる機会を設けた。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問18

担当教員は、グループワークや事前のグループ学習などによる学生同士の協力・助け合いを促した。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問19

担当教員は、学生の理解度に応じた課題を出すなど、学生が自ら学ぶことを促した。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問20

全体として、自分は積極的に授業に参加することができた。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問21

自分は、私語・携帯電話・途中入退室のマナーなどに気を配った。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問22

自分は、他の受講生の私語や授業態度を注意し、学びやすい環境作りに協力した。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問23

担当教員は、学生一人一人を尊重し、学生同士も尊重し合える雰囲気作りを心がけた。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問24

担当教員は、私語への注意や授業態度に対する指導など、学びやすい雰囲気を保つように努めていた。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問25

授業の開始、終了時刻は守られていた。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問26

担当教員は、成績の評価方法を説明した。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問27

全体として、適度の緊張感と望ましいマナーで気持ちよく授業を受けることができた。

- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 該当しない

問28

この授業をさらに良いものにするために気付いたことをお書きください。(自由記述)

問29

その他何かありましたら自由にお書きください。(自由記述)

送信